

令和4年12月

# さいたま市の財政





## はじめに

市が提供するさまざまな行政サービスは、市民の皆様に納めていただいた税金や、国・県からの支出金などによって賄われています。

市では、それらがどのように使われているか、また、執行の状況はどうなっているかなどをお知らせするために、「さいたま市財政状況の公表に関する条例」に基づき、「さいたま市の財政」を毎年2回（6月、12月）公表しています。

今回は、令和3年度の決算の概要と、令和4年度上半期の財政状況をお知らせします。

## もくじ

1 令和3年度決算の概要	1
2 令和4年度歳入歳出予算の執行状況	
・ 一般会計	5
・ 特別会計	7
3 令和4年度予算の使い方と市税負担	9
4 財産、地方債及び一時借入金の現在高	10
5 企業会計の状況	11

## 1 令和3年度決算の概要

### 決算の特徴

- ◆ 令和3年度は、新たな総合振興計画の計画初年度として、「上質な生活都市」、「東日本の中枢都市」を目指すための重点戦略事業や分野別事業等を着実に進めました。
- ◆ 「新型コロナウイルス感染症と自然災害への対策」、「さいたま市誕生20周年を契機に新たな未来を拓く取組」、「新しい時代に対応した行政運営とDXの推進」の3つを柱として、新型コロナウイルス感染症の拡大による難局を乗り越え、さいたま市の新時代へ前進するための事業を実施したことにより、一般会計の決算規模は、過去2番目の規模となりました。

### 決算の総額

## 一般会計

福祉、教育、道路・公園の整備など、市の基本的なサービスを行う会計で、主に市税で賄われています。

福祉

教育

土木

など

歳入 6,539億円

歳出 6,401億円

## 特別会計

国民健康保険や介護保険のように、特定の収入を特定の支出に充てるため、一般会計と区別している事業の会計です。

国民健康保険

介護保険

都市開発

など

歳入 3,205億円

歳出 3,175億円

## 企業会計

民間企業と同じように、基本的には事業の収益で賄われている会計です。さいたま市には水道事業、病院事業、下水道事業の3つの会計があります。

水道事業

病院事業

下水道事業

歳入 1,028億円

歳出 1,197億円

## 全会計合計

歳入 1兆772億円

歳出 1兆773億円

## 主な事業

重点  
事業

## 新型コロナウイルス感染症と自然災害への対策

決算額 286億8,302万円

令和2年度に引き続き新型コロナウイルス感染症に係る検査を着実に実施するとともに、医療機関への支援を行い医療提供体制を確保するほか、市民に対するワクチン接種体制を整備し、速やかに予防接種を実施するなど感染症対策を迅速に進めました。

また、自然災害への対策として、近年の豪雨災害を踏まえた河川や排水路の改修などの治水対策を推進するとともに、災害情報を確実かつ迅速に伝達できるよう情報伝達手段の多様化を図るほか、災害時の避難所機能の強化を図るため、学校体育館への空調機の設置を推進しました。

## さいたま市誕生20周年を契機に新たな未来を拓く取組

決算額 4億6,106万円

令和3年度は、さいたま市誕生20周年を迎えるとともに、新たな総合振興計画の計画初年度となり、さいたま市が新たな一歩を踏み出すこととなりました。20周年という節目の年を契機に、市民に対する市への愛着と誇りの醸成等を図るとともに、新たな総合振興計画の推進に当たっては、「SDGs」、「スマートシティ」という視点を持って各分野の施策を実施することで、本市がはぐくんできた魅力や地域資源を更に生かし、未来に引き継ぐための持続可能な都市づくりを進めました。

## 新しい時代に対応した行政運営とDXの推進

決算額 13億1,116万円

今後のポストコロナ時代を見据え、行政分野における制度・業務・手続などをデジタルを前提としたものに抜本的に見直す「デジタルファースト」な行政運営への転換を図り、行政手続の原則オンライン化、テレワークの推進、データの利活用による政策形成、AI、RPA等新たな技術を活用した業務効率化などに取り組むことで、市民サービスの向上や行政の生産性の向上を図りました。

また、コロナ禍により顕在化した市内企業のデジタル化の遅れやビジネスモデルの変革に対応するため、中小企業に対してAI・IoTなどの実装支援や新技術分野に対する人材育成支援など、企業のCX/DXを推進する取組を実施しました。

01

コミュニティ・  
人権・多文化

自治会運営補助金交付事業

決算額 2億8,096万円

住み良い豊かな地域社会の形成に資することを目的として、自治会及び自治会連合会の運営に要する経費の一部を補助するとともに、さいたま市自治会連合会のホームページ運営を支援しました。

国際交流の機会増加及び多文化共生意識の醸成

決算額 6,355万円

多言語生活相談や日本語教室、ボランティア養成講座、国際交流イベント等を実施しました。

02

環境

スマートシティさいたまモデル  
推進事業

決算額 1億385万円

「公民＋学」の連携・協力のもと、新たな生活支援サービスを提供するとともに、コミュニティ形成を促進しながら、スマートシティさいたまモデルを推進しました。

見沼田圃の保全と新たな活用・創造の推進

決算額 7,584万円

「農・自然・歴史とふれあう、憩いのふるさと“みぬま”」を実現するために、見沼田圃基本計画次期アクションプランを策定し、みぬま木崎ひろばを整備するとともに、情報発信力を強化しました。

03

健康・  
スポーツ

健康マイレージ

決算額 1億4,108万円

ICTを活用し、楽しみながら継続的な運動習慣の獲得を図るため、歩数等に応じてポイントを付与する健康マイレージを実施しました。

「さいたまスポーツシューレ」活用推進事業

決算額 2,038万円

持続的で幅広いスポーツ振興に貢献する環境の実現に向け、民間力を最大限に活用した取組として、スポーツビジネス創出・活性化事業や、ICTを活用したスポーツ指導を実施しました。

04

教育

グローバル・スタディの推進

決算額 6億872万円

グローバル社会で主体的に行動し、たくましく豊かに生きる児童生徒を育成するため、「グローバル・スタディ」を実施しました。

児童生徒用コンピュータ整備事業

決算額 6億4,821万円

「GIGAスクール構想」により整備した児童生徒1人1台端末の効果を高めるため、適切な維持管理を行うとともに、新たに全ての市立中学校において大型提示装置を導入しました。

05

生活  
安全

地域防犯活動等助成事業

決算額 2,594万円

自治会等に対し防犯活動や防犯カメラの設置に係る経費の一部を助成し、さいたま市防犯協会、さいたま市暴力排除推進協議会に対し、補助金を交付しました。

交通安全教室事業

決算額 1,147万円

幼児・小学生・高齢者などを対象とし、交通マナーや交通ルールを実践的に学ぶ教室を開催しました。

06

福祉

一般介護予防事業

決算額 1億3,989万円

高齢者自身が身近な場所で継続して運動を行うことができるよう介護予防の普及・啓発、ボランティアの育成、リハビリテーション専門職等の関与を促進する取組を行う等、「地域づくりによる介護予防」を推進しました。

シルバーポイント（長寿応援ポイント）事業

決算額 4,545万円

65歳以上の方が登録団体で健康づくり等の活動を行った場合にポイントが付与され、貯めたポイントを奨励金に交換できる事業を実施しました。

07

子ども・子育て

特定教育・保育施設等の整備事業

決算額 30億7,048万円

多様な保育の受け皿確保のため、認可保育所等29施設、定員2,102人分の整備に要する費用の一部を補助するとともに、小規模保育事業等の連携施設の確保支援などを実施しました。

保育人材確保対策事業

決算額 15億1,280万円

市内保育施設への就職支援を実施するほか、保育士の処遇改善や保育支援者配置等に係る経費を補助しました。また、市外から就職する保育士の利用拡大等による宿舍借り上げ支援事業の補助を拡充しました。

08

文化

市民会館おおみや新施設整備事業

決算額 109億991万円

大宮駅東口大門町2丁目中地区第一種市街地再開発事業に伴い、文化会館機能、コミュニティ機能を備えた新市民会館おおみや（RaiBoC Hall）を整備しました。

国際芸術祭レガシー事業

決算額 895万円

さいたま国際芸術祭のレガシーとして、市民サポーターの活動支援、市民プロジェクト事業等を実施しました。

09

都市インフラ

幹線道路整備事業

決算額 68億3,319万円

都市活動を支える道路交通ネットワークを形成するため、都市計画道路等の幹線道路整備を効果的かつ効果的に推進しました。

市街地再開発推進事業

決算額 1億835万円

浦和駅西口南高砂地区市街地再開発事業を推進するとともに、浦和西口停車場線等の整備を実施しました。

10

防災・消防

排水路等改修事業

決算額 6億8,649万円

浸水被害の軽減、治水安全度の向上を図るため、市が管理する排水路等の整備を推進しました。

油面川排水機場整備事業

決算額 4億5,086万円

油面川流域における浸水被害を軽減するため、令和4年度に油面川排水機場を運用開始できるよう整備を推進しました。

11

経済・産業

中小企業の生産性・付加価値向上を通じた成長促進支援

決算額 3億4,886万円

DXの推進、前向きな投資や事業再構築に取り組む市内中小企業の持続的な成長に向けた経営基盤の強化と生産性・付加価値向上に繋がる総合的な支援を実施しました。

企業立地の促進

決算額 2億1,113万円

本市の優位性を生かした企業誘致活動や官民連携による新たな産業集積拠点の創出に向けた権利者組織の支援及び関係機関協議等を実施しました。

12

市民協働・公民連携、高品質経営市役所

スマートフォン決済の導入

決算額 663万円

納税者の更なる利便性向上と接触機会の低減を図るため、新たに市税の納付にスマートフォンアプリを利用したキャッシュレス決済を導入しました。

Park-PFI等公民連携による公園のにぎわい創出

決算額 5万円

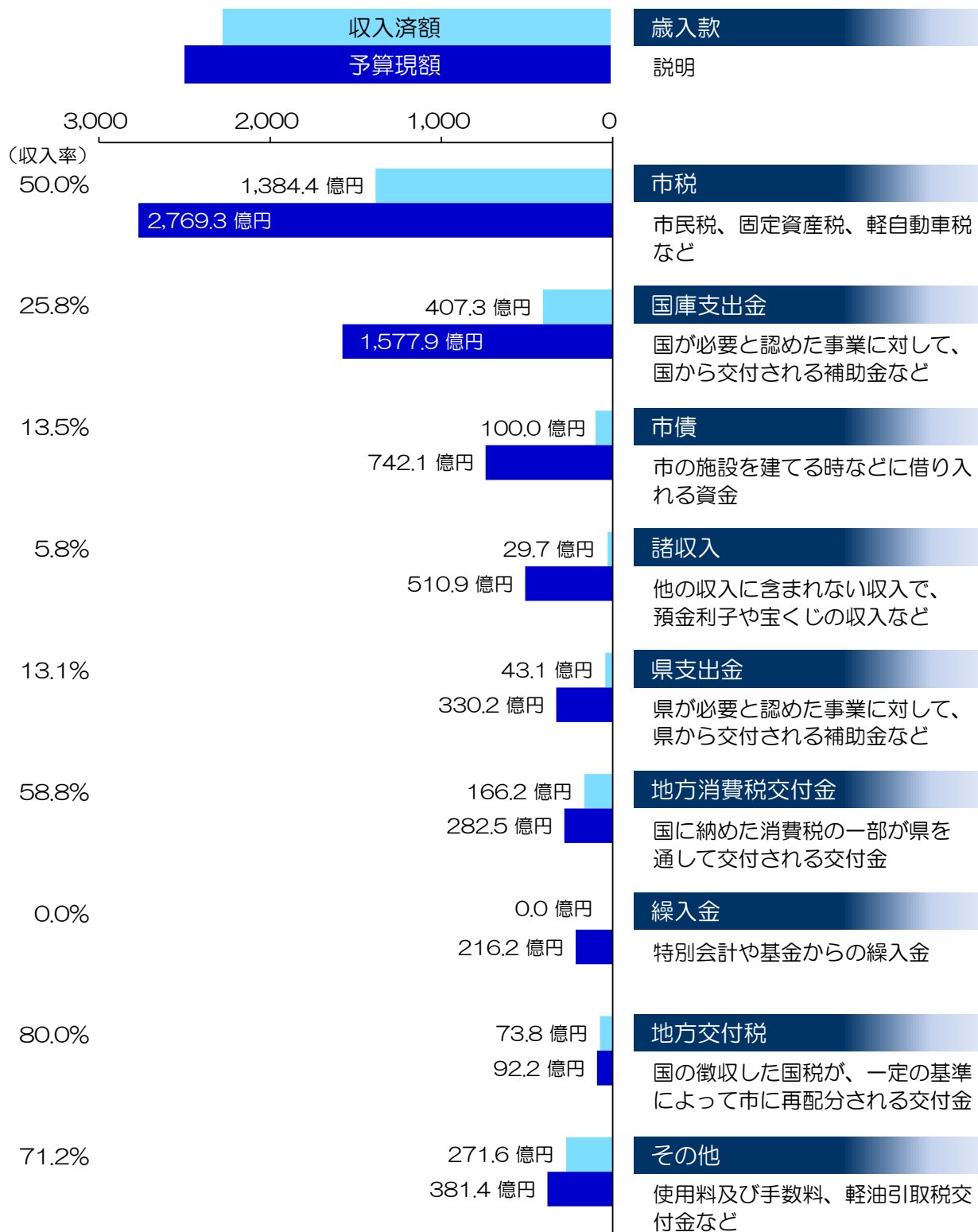
公園のにぎわい創出、魅力の向上を図るため、公募設置管理制度（Park-PFI）やネーミングライツの活用など、公民連携事業を推進しました。

## 2 令和4年度歳入歳出予算の執行状況

### 一般会計

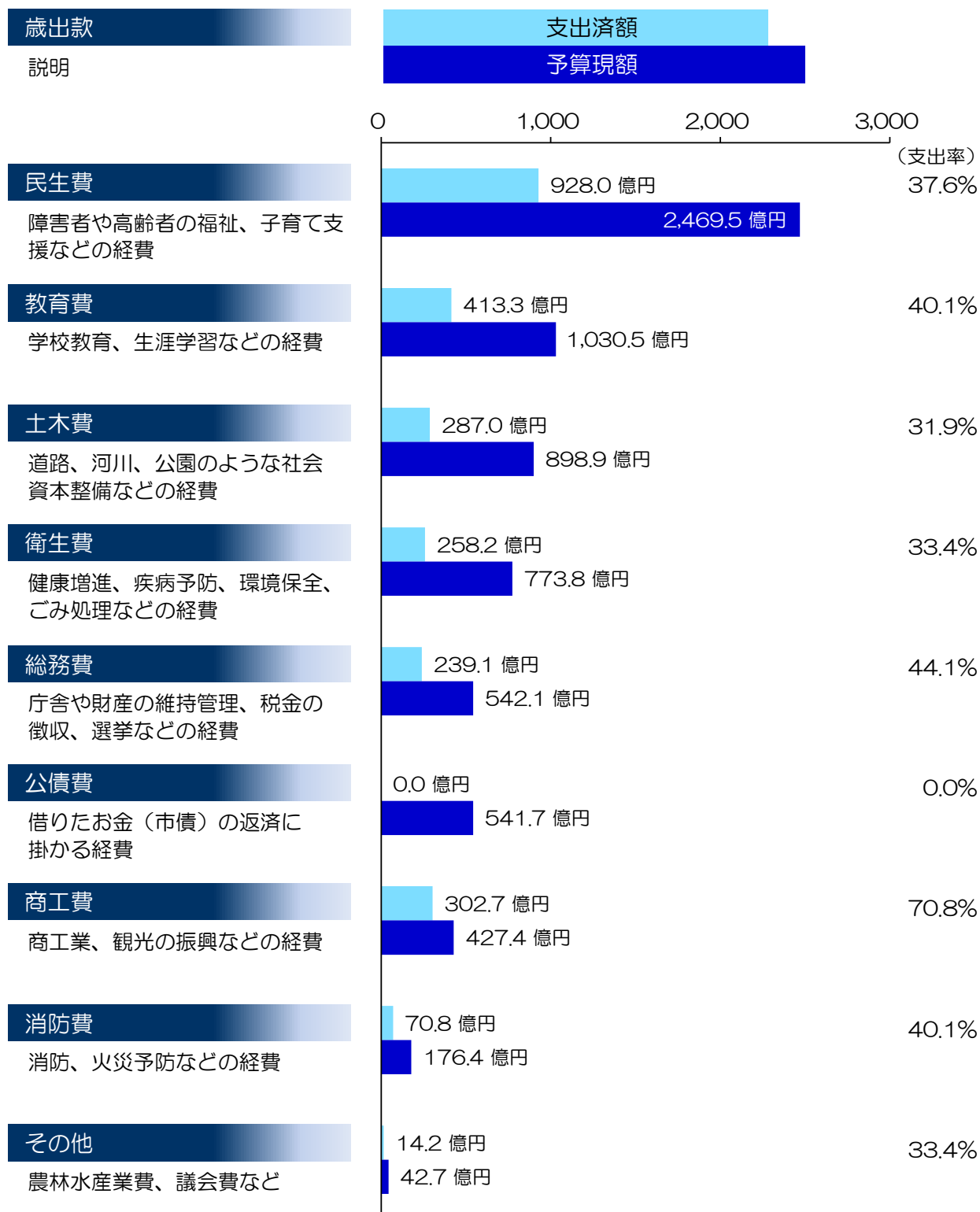
※予算現額は、当初予算額に補正予算額と前年度繰越額を加えた令和4年9月末の予算額を表します。  
補正予算額には、9月末時点で成立していないものは含まれていません。

歳入  $\frac{\text{収入済額 } 2,476\text{億}1,255\text{万円}}{\text{予算現額 } 6,902\text{億}9,039\text{万円}} = \text{収入率 } 35.9\%$

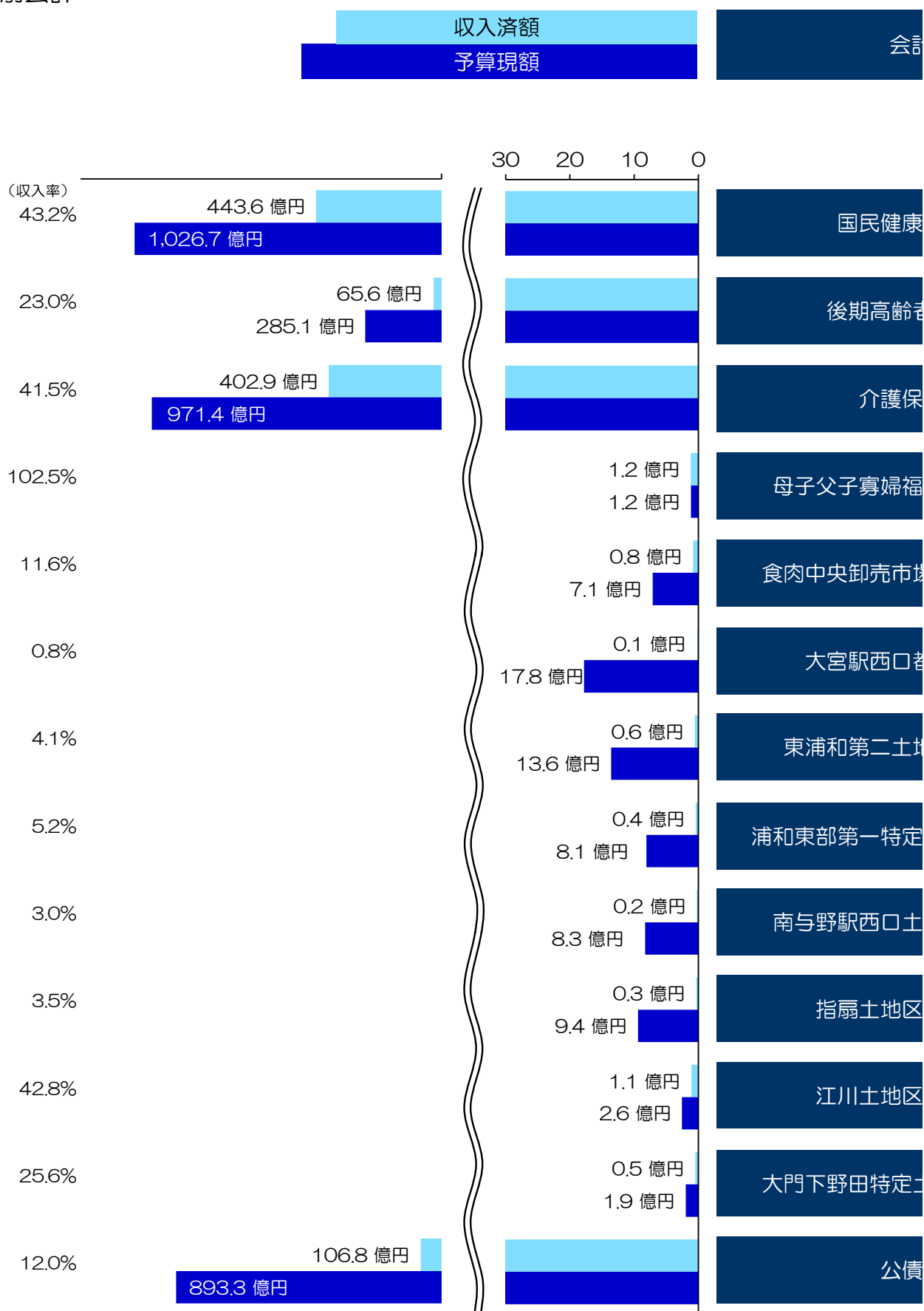


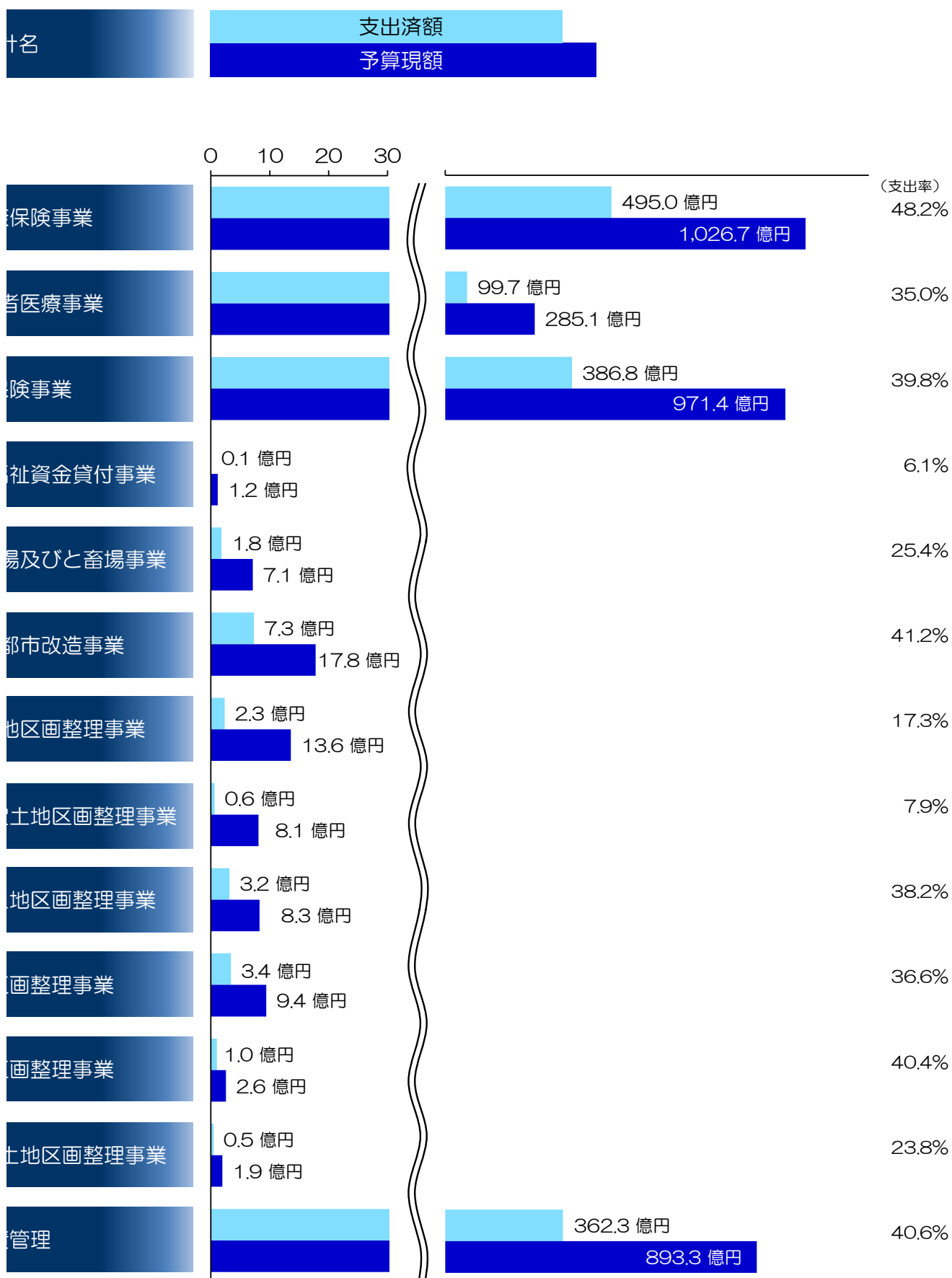


歳出  $\frac{\text{支出済額 } 2,513\text{億}3,885\text{万円}}{\text{予算現額 } 6,902\text{億}9,039\text{万円}} = \text{支出率 } 36.4\%$



特別会計





### 3 令和4年度予算の使い方と市税負担

※区分ごとに四捨五入しているため、各数値の合計と総額は一致しない場合があります。

#### 市民一人当たりの予算の使い方

1

#### 民生費



184,454円

歳出（一般会計）を、  
市民一人当たりに換算すると、

515,600 円

※市民一人当たりの歳出の額を、目的別で金額の多い順に並べています。  
※令和4年10月1日現在の人口（1,338,810人）を基に算出（以下同様）

2

#### 教育費



76,969円

3

#### 土木費



67,139円

4

#### 衛生費



57,799円

5

#### 総務費



40,493円

6

#### 公債費



40,458円

7

#### 商工費



31,926円

8

#### 消防費



13,175円

#### その他

農林水産業費  
議会費  
予備費  
労働費  
災害復旧費

3,187円

#### 市税負担の状況

市税を、市民一人当たりに換算すると、

206,849 円

#### 市民税



114,683円

#### 固定資産税



67,150円

#### 都市計画税

14,394円

#### 市たばこ税

5,760円

#### 事業所税

3,558円

#### 軽自動車税

1,301円

#### その他

3円

## 4 財産、地方債及び一時借入金の現在高

※区分ごとに四捨五入しているため、各数値の合計と総額は一致しない場合があります。

### 財産の現在高

土地	建物	基金
		
3,201万㎡	273万㎡	844億円

### その他の財産

区分	9月末現在高	
公有財産	立木	7,274㎡
	物権	27万㎡
	無体財産権	15件
	有価証券	97億円
	出資による権利	18億円
物品	4,735点	
債権	30億円	

※物品は、取得価格が1点100万円以上の備品の年度末現在高のみ掲載しています。

#### ※基金現在高の内訳

- ・財政調整基金：年度間の財源不均衡を調整するために設置される基金で、決算剰余金等を積立て、必要に応じて取崩しを実施。 303億円
- ・減債基金：地方債の償還を計画的に行うために設置される基金で、計画に応じて積立て・取崩しを実施。 183億円
- ・その他特定の目的のために設置される基金：公共施設の老朽化対策など、事業の目的に応じて積立て・取崩しを実施。 358億円

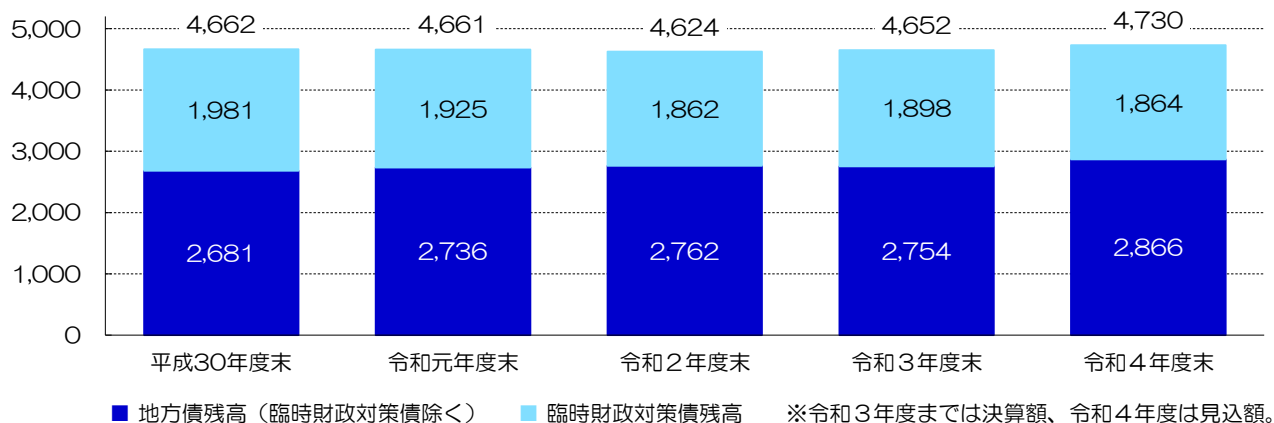
### 地方債の現在高

(単位:億円)

会計	平成30年度末	令和元年度末	令和2年度末	令和3年度末	令和4年度末 (見込み)	
一般会計	4,662	4,661	4,624	4,652	4,730	
特別会計	120	103	86	71	74	
企業会計	水道事業	480	445	429	416	433
	病院事業	83	341	333	319	319
	下水道事業	1,812	1,806	1,801	1,785	1,765
合計	7,157	7,357	7,273	7,243	7,321	

### (参考) 地方債の現在高の推移 (一般会計)

(単位:億円)



### 一時借入金の現在高

令和3年度下半期に引き続き、令和4年度上半期における借入れはなく、令和4年9月末現在の残高は、ありません(一時借入金は、金融機関からの借入れを指し、基金や会計間の繰替運用によるものは含みません。)

## 5 企業会計の状況

### 水道事業

現在、本市の人口は増加傾向にあります。将来的には減少に転じ、あわせて給水人口や給水収益も減少していくと推測されます。

一方で、浄水場、配水場や管路の老朽化が進み、その更新需要は更に増加していく見込みです。また、災害時においても安定した給水を行うため、耐震化対策を推進する必要があります。これらを計画的に進めていくことが課題となっています。

水道局では、このような環境の変化や重要な課題に対応するため、令和3年3月に策定した「さいたま市水道事業長期構想（2021－2030）」に基づき、財政とバランスの取れた施設整備を行うなど、効率的かつ効果的な事業運営を推進する必要があります。

#### 令和3年度決算の概要

決算額 44,324,358千円

(主な事業) (単位:千円)

水道施設整備事業	9,658,511
水道水の安定供給を図るため施設整備を推進しました。	

### 病院事業

本市が運営する唯一の公立病院であるさいたま市立病院は、地域の基幹病院として、地域医療における中核的な役割を果たしていますが、救急・周産期・感染症・災害等の不採算・特殊部門に係る医療の多くを公立病院が担っている中、全国的に公立病院を取り巻く経営環境や医療提供体制の維持が極めて厳しい状況となっています。

このような状況の下、医療機能の拡充・強化を行ったさいたま市立病院では、市民が地域の中で必要な医療を受けることができる「地域完結型医療の要」として、安定した医療提供体制を維持するため、中期経営計画に基づき、医療機能の充実と健全な経営基盤の確立を図ります。

#### 令和3年度決算の概要

決算額 27,481,571千円

(主な事業) (単位:千円)

市立病院医療機器等整備事業	284,904
質の高い医療の提供及び病院機能の拡充のため、医療機器等を整備しました。	

### 下水道事業

自然災害への備えや下水道施設の老朽化による事故を未然に防止し、豊かな自然環境や快適な生活環境を創りつけていくため、主要事業である下水道浸水対策事業、下水道施設老朽化対策事業、下水道汚水事業を推進していきます。

また、令和3年3月に策定した「さいたま市下水道事業中期経営計画」に基づき、市民・企業に安定的・継続的に下水道サービスを提供するため、現行使用料水準を維持しつつ、下水道事業の健全な経営を継続していきます。

#### 令和3年度決算の概要

決算額 47,868,743千円

(主な事業) (単位:千円)

下水道浸水対策事業	3,206,663
浸水被害の軽減を目的とした雨水管及び雨水貯留施設等の整備を推進しました。	

下水道施設老朽化対策事業	2,556,118
下水道施設の老朽化に伴い、予防保全の観点から計画的な改築を行うとともに、緊急輸送道路下などの重要な下水道管の耐震化を推進しました。	

下水道汚水事業	2,665,688
合併処理浄化槽との役割分担により、事業効率が低い区域の汚水整備を推進しました。	

## ■ 計理の概況（令和4年度上半期）（単位:千円）

（単位:千円）

科目	金額
資産	229,720,732
（1）固定資産	210,367,235
（2）流動資産	19,353,497
負債	75,342,173
（1）固定負債	40,124,529
（2）流動負債	7,393,360
（3）繰延収益	27,824,284
資本	147,711,625
（1）資本金	134,318,122
（2）剰余金	13,393,503
収益	14,461,452
うち営業収益	14,357,018
費用	7,458,645
うち営業費用	7,121,147
整理勘定（中間勘定）	335,873

	収入		支出	
	収入額	収入率	執行額	執行率
収益的収支	15,894,342	46.9%	8,051,924	28.2%
資本的収支	46,583	0.5%	5,802,561	23.6%

## ■ 事業の概況（令和4年度上半期）

項目	前年同期	当期	対前年度
給水件数	628,361	637,643	101.5%
給水量（m <sup>3</sup> ）	68,153,460	67,643,490	99.3%
一日平均 給水量（m <sup>3</sup> ）	372,423	369,637	99.3%

## ■ 計理の概況（令和4年度上半期）（単位:千円）

（単位:千円）

科目	金額
資産	45,381,521
（1）固定資産	38,395,392
（2）流動資産	6,986,129
負債	37,898,625
（1）固定負債	34,080,201
（2）流動負債	2,561,376
（3）繰延収益	1,257,048
資本	8,414,135
（1）資本金	9,035,439
（2）剰余金	▲ 621,304
収益	9,186,847
うち医業収益	9,068,685
費用	9,621,068
うち医業費用	9,515,091
整理勘定（中間勘定）	497,018

	収入		支出	
	収入額	収入率	執行額	執行率
収益的収支	9,208,670	38.8%	9,816,631	37.3%
資本的収支	487,619	14.3%	1,851,813	35.4%

## ■ 事業の概況（令和4年度上半期）

項目	前年同期	当期	対前年度	
病床数	637	637	100.0%	
入院患者数	一般病床	80,787	81,511	100.9%
	結核・精神	2,916	3,219	110.4%
一日平均 入院患者数	一般病床	441.5	445.4	100.9%
	結核・精神	15.9	17.6	110.7%
外来患者数	125,062	131,055	104.8%	
一日平均外来患者数	1,025.1	1,065.5	103.9%	

## ■ 計理の概況（令和4年度上半期）（単位:千円）

（単位:千円）

科目	金額
資産	418,705,886
（1）固定資産	407,405,482
（2）流動資産	11,300,404
負債	276,300,831
（1）固定負債	167,258,862
（2）流動負債	10,120,888
（3）繰延収益	98,921,081
資本	136,722,571
（1）資本金	131,056,472
（2）剰余金	5,666,099
収益	12,162,806
うち営業収益	12,158,295
費用	3,508,246
うち営業費用	2,414,355
整理勘定（中間勘定）	2,972,076

	収入		支出	
	収入額	収入率	執行額	執行率
収益的収支	13,006,613	49.0%	3,725,684	14.9%
資本的収支	434,004	2.9%	9,591,372	30.5%

## ■ 事業の概況（令和4年度上半期）

項目	前年同期	当期	対前年度
汚水処理戸数	544,530	554,732	101.9%
汚水処理水量 （m <sup>3</sup> ）	76,761,143	74,275,296	96.8%
一日平均汚水 処理水量（m <sup>3</sup> ）	419,460	405,876	96.8%







令和4年12月 さいたま市の財政  
編集発行 さいたま市財政局財政部財政課  
TEL 048-829-1154  
FAX 048-829-1974

---

この冊子は150部作成し、1部当たりの印刷経費は81円です。